

食の安全と品質保証のための

2009 Vol.15

月刊 HACCP 3

HAZARD ANALYSIS AND CRITICAL CONTROL POINT

特集

進化・拡大する地方自治体の
HACCP推進・認証事業

新時代に挑む 牛・豚のと畜・カット施設でISO22000認証取得
企業戦略 千葉県食肉公社

ペストコントロールの考え方

第三者審査登録機関 エコアオーデット(株)

代表／CEO 宮澤公栄

ペストコントロールは、よく「そ族昆虫の管理」と訳されることがあります。しかし、正確には病原微生物媒介要因を制御することを指しています。病原菌を媒介する主な対象がそ族と昆虫が多いということで、訳が誤解を与えていることも多々あります。

「ハエの防除・ゴキブリ防除・ネズミ防除」ができたからといって安心するのではなく、どのような有害生物が自社に関係しているかを特定することから始めて、適切な対策をとることが本来のペストコントロールです。

対象となる生物を選別すると大分類として①飛翔性昆虫、②歩行性昆虫、③害鳥獣というカテゴリになります。もうお気づきだと思いますが、ハエ・ゴキブリ・ネズミというのは病原微生物媒介要因の①～③の代表格とされているものです。いつの間にか代表格を処置していれば十分な対応ができているという誤解が広まっているようですね。もう一度基本に立ち返り適切なペストコントロールを確立することにより実践的な成果を出しましょう。

この害虫獣そのものや、胴体の一部・体毛・ふんなどが食品へ異物混入となった場合は、「商品変形」や「入り数が足りない」などのクレームとは比較にならないほどの衝撃と失望があり、大きく消費者信頼を失うこととなります。情報文化が

進む昨今では、マスコミやインターネットにより二次的な信用喪失につながることも、企業へのダメージを広げます。

製造や販売の視点から考えれば、数万・数十万の内における一つの異物混入であっても、一家の楽しい夕食にハエやゴキブリがでてくれば、消費者が怒りを感じるのも当然かもしれません。HACCPでは、人体への危害から考えた場合に、虫などの危害は低いと分類することが珍しくありません。確かに虫自体が商品に入り消費者が摂取した危害度は高くないかもしれませんが、消費者の衝撃と失望を軽く見ると、ファンを減らすことになるので注意が必要です。

これらの問題を起こさない仕組み作りがペストコントロールとなりますが、モニタリングという言葉が独り歩きしているように見受けられます。モニタリングとは監視測定をしているとの意味ですが、モニタリングの意味と許容限界を決めずに、捕獲された虫やネズミの数だけ数えても仕方ありません。例えば、「各製造エリアの衛生レベル別に捕獲許容頭数を設定し、問題がないことを確認する」、または「クリーンルームなどで0にする(いない)ことを確認および証明するためにモニタリングを行う」等、具体的なルールを作成することがペストコントロールの最初の一步となります。

ペストコントロールの対象

害虫	飛翔性	ガ・タマバエ・ユスリカ・チョウバエ・ガガンボ・ニセケバエなど
	歩行性	ゴキブリ・カマドウマ・クモ・ダンゴムシ・ヤスデ・ムカデなど
害獣	飛翔性	鳥類(主にカラス・ドバト)・ムササビ・コウモリなど
	歩行性	ネズミ・イヌ・ネコ・イタチ・テン・ハクビシンなど



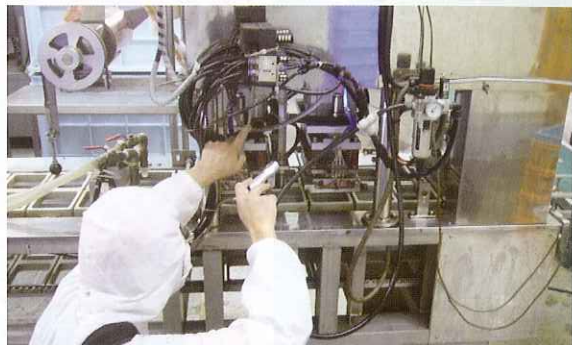
確認しにくいところこそ、衛生害虫(ゴキブリ・ハエなど)や不快害虫(ヤスデ・アリなど)が生息しやすいので、徹底した確認と清掃がベストコントロールの第一歩です。工場内だけでなく周辺も確認してください



ネズミ捕獲用の粘着トラップを仕掛けています。単純な作業に見えますが仕掛ける場所によって捕獲率はまったく異なります。対象のネズミの性質と成育期を予測することが捕獲のポイントです。ネズミがないことのモニタリングとしても利用できます。設置したトラップは、どこに配置されているか把握できるように図面に記載しておきます。垂直に移動ができるクマネズミや薬剤に抵抗力のあるスーパーラットと呼ばれるネズミにも注意しましょう



飛翔性昆虫捕獲用のライトトラップです。このライトトラップは捕獲として利用するのか、モニタリングとして利用するのか計画段階で決めておかないと意味がありません。「1万匹とか2万匹取れました」という報告書を見ても意味がないですから…ライトトラップ自体が非常に汚れている企業が多いのも事実です。工場内に設置されている器具ですから衛生的に保つ必要があるため殺菌剤などで、殺菌や清掃ができるステンレス製が適切です



機械の内部は清掃しにくいので、食品残渣が残りやすく衛生害虫には最適な住みかになります。機械内部だからといってあきらめず、どのような害虫防除ができるか計画して対策を立てなければなりません



清掃と害虫防除には密接な関係があります。よく「虫が湧く」といわれますが、何も無いところから虫が湧くことはありません。必ず成虫や卵が外部から侵入または持ち込まれ、そこから営巣して繁殖します。原料などに付着した虫が仮に工場に入っても、営巣できなければ絶滅するので、エサや住みかを与えないことが重要です



出入り口のフレーム隙間があり、粘着トラップを設置しているところです。以外と見過ごしてしまうような「隙間」や「クラック」などにゴキブリが潜んでいることもあります。特に「汚れているところ」「暖かいところ」「エサがあるところ」「水があるところ」には要注意です。また、このトラップは歩行性昆虫用ですが、チョウバエを中心とした飛翔性昆虫が捕獲されることもあります。すべての飛翔性昆虫はライトトラップに誘引されるわけではないので、歩行性粘着トラップにて捕獲された虫の事実も重要な情報源になります

ズデザインのホームページにて公開中 (<http://www.foodesign.net/>)。

ISO22000推進管理者養成セミナー 3月12～13日、エコアオーデット

エコアオーデット(株) (東京都立川市、齋藤恵美社長) は3月12日(木)～13日(金)の2日間、お茶の水会議室 (東京都千代田区神田駿河台4-5-3 穂高ビル2階) において「ISO22000推進管理者養成セミナー」を開催する。講師は同社のISO22000主任審査員・審査員が務める。

本セミナーでは、企業におけるバランスの良い食品安全マネジメントシステムを構築するためのポイントについて、わかりやすく解説する。カリキュラムは解説と演習を交えて構成され、全コース終了後にはテストが行われ、修了書が発行される。主な内容は、食品安全の概要、規格要求事項、要求事項、基礎構築、食品危害と制御、HACCPシステムなど。

定員25人。受講料は一般企業4万8000円、クラ

イアント企業3万5000円(税込)。問い合わせおよび申し込み等はエコアオーデット(株) (〒190-0021東京都立川市羽衣町2-6-1、担当:大越、TEL042-548-0315、FAX042-548-0316、Eメールinfo@ecoreaudit.jp) まで。ホームページからの申し込みも可能 (<http://www.ecoreaudit.jp>)。

事業戦略と食品安全セミナー 3月16日、エコアオーデット

エコアオーデット(株)は3月16日(月)、サン・リフレ函館 (函館市大森町2-14) において「事業戦略と食品安全セミナー」を開催する。講師は本誌「GRAVURE」にて連載中の宮澤公栄氏 (東京海洋大学大学院FSMS論講師、ISO22000 / ISO9001 / HACCP主任審査員) が務める。セミナーでは、食品企業の経営者、工場長、管理者、製造開発者、営業統括者などを対象に、「不況時代の事業戦略」「コンプライアンスと食品安全」などについて解説される。